

## 医政メモQ&A

### Q：「医療保険薬剤費5,300億円の不明金 一不正請求の疑い」の記事の真偽は？

A：4月11日の道新を御覧になって疑問を感じた札医会員も多かったと思う。余りにもセンセーショナルな見出しと、突飛な結論に新聞社の見識を疑ってしまう様な記事でした。この件に関してのその後の経過を検証してみたい。

#### \*記事の概要\*

『医薬品生産動態統計から推計した生産・販売ベースの薬剤費とレセプト請求される薬剤費の間に5,300億円の説明不可能な乖離が認められた。95年度に医療保険が支払った医療費は27兆6,000億でその28%（7兆6千億）が薬剤費であり、製薬メーカーの国内医薬品出荷額は合計5兆5千億円にしかすぎない。卸業者のマージンは2,200億円と推計し医療機関に入る薬価差益は推計1兆3,500億円としても5,300億円の支払い超過になる。これは医療機関の不正請求による可能性がある。その手口は、205円以下の薬についてはその薬品名を明記しなくても良い事を利用して10円の薬でも204円で請求しているのだろう。』と一般の人なら無批判に納得してしまいそうな憶測記事であった。さらに道新では上山和人参議院議員（社民）に「これは医療機関による不正請求としか考えられない。われわれも精査していく。」と語らせている。

#### \*記事が出る背景\*

保険法の改正により出来るだけ患者負担を増やしたいという厚生省の考えは、投薬の種類数に応じて定額（1種類15円）を負担させようとしていた。例えば1種類10円の薬でも15円負担させようという点には当然反対意見が出る。現行の205円以下を1剤と見做す事は厚生省にしてみれば、予算上のもくろみにかなりの支障をきたす事になってしまう。そこで

与党医療保険制度改革協議会に厚生省が提出した資料を基にして世論操作が行われたと思われる。邪らな目的を感じ取った多くの新聞社は記事にしなかったが全国紙では日本経済新聞、道内では道新のみが大きな見出しで取り上げた。

#### \*事実は\*

日医でも問題となり、記事に沿って計算をやり直してみたところ、記事の根拠になっていた数字は、正確に調べれば全く違う数字になる事が分かった。特に卸業者の利益が2,200億と見積もられているがこれには販売経費が無視されており、実際には販売経費を上乗せした額で医療機関に納入されており約3倍の6,600億にはなるはずで、この補正だけでも乖離はかなり解消してしまう。さらに国民医療費の内訳を考慮していない。歯科・調剤にも医科の薬剤比率を適用している。医療機関の在庫分に対する配慮がない。等を加味すれば誤差範囲の違いしかなくなる。日医の菅谷常任理事は「薬価差の割合も不正確で推計の積み重ね」・「確認もせずに報道する姿勢は問題である」等と強く報道機関の態度を批判した。資料を作成し、安易に世論操作を企てた厚生省に対しても強く注意を促した。またこの問題は国会でも取り上げられ肥田美代子氏（民主）の質問に対して厚生省高木保険局長は「調査方法が各々異なる推計値を機械的に組み合わせることで計算したもので乖離を説明する事は不可能」と杜撰さを認める答弁をしている。205円以下の薬について、レセプトにはその薬品名や・投与量の記載は不要とされている事実を、点数も自動的に205円に記載出来るかのような詭弁まがいの論法で確かめもせず世論を誘導するマスコミの姿勢には傲慢ささえ感じ

る。このような誤った報道を基に5月6日の医療保険制度に関する与党3党合意案には、「保険給付における薬剤費支出の不明朗な実態の解消に努める」と盛り込まれてしまった。当日、日医会長は緊急会見を行い、『5,300億円の「不正請求」問題は医療保険制度改革協議会で徹底的に究明・検証をしてもらう。事

実と異なるときは名誉毀損にかかわるものと考えている』と明言している。

今後保険法の改正に伴い報道機関も様々な特集を企画していると思われる。誤った方向に誘導する事のないよう、正しい知識を周知徹底するように監視しなければならない。

(医政部担当理事 白石 正勝)

## 〈研修会のお知らせ〉

市立札幌病院内に札幌市医師会地域医療室が開設され、多くの会員の皆様にご利用いただいております。これを機に病診連携をより一層深めることを目的として、下記により研修会を開催いたします。(通常は第2週の木曜日に院内研修会を行い第4週の火曜日に剖検検討会を行います。)

なお、内容の詳細が決定するのは開催日近くとなりますので、地域医療室(川村)まで電話かファックスでお問い合わせください。

札幌市医師会地域医療室 ☎726-2211 (2921)  
(担当 川村) F A X 707-7706

### 〈第784回市立札幌病院院内研修会〉

日 時：1997年7月10日(木) 午後5時30分

場 所：大講堂(2階)

主 題：I.末梢血幹細胞移植術(PBSCT)

1. 当院におけるPBSCT19症例の検討 免疫・血液内科 能登谷 京
2. 末梢血幹細胞採取の効率化—末梢血CD34+c e l l測定をマーカーとして—検査部血清 與田 一男
3. 卵巣癌のPBSCT4症例の検討 産婦人科 原 洋子

II.抗リン脂質抗体症候群—最近の話題— 免疫血液内科 向井 正也  
(担当 免疫・血液内科 河野 通史)

### 〈平成9年市立札幌病院院内研修会担当科について〉

平成9年8月 休会 平成9年11月 消化器内科

平成9年9月 呼吸器内科 平成9年12月 腎臓内科

平成9年10月 脳神経外科 平成10年1月 小児科

### 〈国立札幌病院院内C P C〉

日 時：1997年7月9日(水) 午後5時

場 所：国立札幌病院3階カンファレンスルーム

主 題：症例未定

### 〈がん情報ネットワークカンファレンス〉

7月3日(木) 16:30 最近の精神腫瘍学の動向(国立がんセンター東病院発信)

7月10日(木) 16:30 脳悪性腫瘍の治療(宮城県がんセンター発信)

7月17日(木) 16:30 在宅医療(国立札幌病院発信)

7月22日(火) 18:00 消化管テレイメージカンファレンス(国立がんセンター中央病院発信)

7月24日(木) 16:30 造血管腫瘍における遺伝子異常(国立がんセンター中央病院発信)

7月25日(金) 17:30 臨床検査セミナー(国立がんセンター中央病院発信)

7月31日(木) 16:30 早期肺癌の局所治療(愛知県がんセンター発信)